

道下公民館だより 復刻版完成

住民の縦糸と諸活動の横糸で
織り綴られた道下の歴史がここに!!

目次

刊行にあたって 道下公民館長 大崎 勇
時の流れの中で 前道下公民館長 東城 豊二
公民館改築20周年に際して 公民館運営審議会会長 高村 國雄

道下公民館だより復刻版

10号 (S.56.6.1)	14号 (H.7.6.1)	62号 (H.14.6)
11号 (日付なし)	(H.7.12.1)	63号 (H.14.12)
12号 (S.57.8.1)	(H.8.4)	64号 (H.15.3)
13号 (S.58.6.1)	(H.8.6)	65号 (H.15.6)
14号 (S.59.4.5)	(H.8.12)	66号 (H.15.12)
(S.60.1.1)	(H.9.3)	67号 (H.16.3)
(S.61.1.1)	(H.9.6)	68号 (H.16.6)
(S.61.12.1)	47号 (H.9.11)	69号 (H.16.12)
(S.63.7.1)	48号 (H.10.3)	70号 (H.17.3)
(S.63.12.1)	49号 (H.10.6)	71号 (H.17.6)
(H.1.7.1)	50号 (H.10.12)	72号 (H.17.12)
(H.2.8.1)	51号 (H.11.3)	73号 (H.18.3)
(H.2.12.1)	52号 (H.11.6)	74号 (H.18.6)
(H.3.6.1)	53号 (H.11.12)	75号 (H.18.12)
(H.3.11.1)	54号 (H.12.3)	76号 (H.19.3)
(H.4.6.1)	55号 (H.12.6)	77号 (H.19.6)
(H.5.3.1)	56号 (H.12.12)	78号 (H.19.11)
(H.5.6.1)	57号 (H.13.3)	79号 (H.20.3)
(H.6.6.1)	59号 (H.13.7)	80号 (H.20.6)
(H.6.11.1)	60号 (H.14.1)	81号 (H.20.11)
(H.7.3.1)	61号 (H.14.3)	82号 (H.21.3)

編集後記

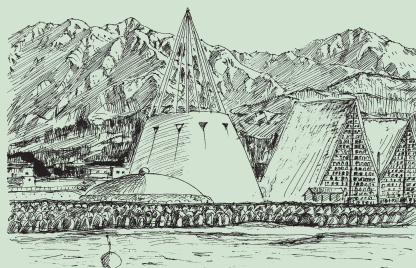
購入ご希望の方には
一冊1,000円で販売いたします。
道下公民館までお問合せください。
(TEL 22-2285)

改築20周年記念

道下公民館だより

(昭和56年6月～平成21年3月)

復 刻 版



平成21年5月

魚津市道下公民館

道下公民館だより

No. 83 号

発行者 大崎 勇
編集者 編集委員会
TEL 0765-22-2285
ホームページアドレス
<http://www.nice-tv.jp/~michi-k/>

平成21年度 道下地区敬老会

平成21年6月7日(日)

受付: 午前9:15～
開演: 午前9:45
会場: 道下小学校体育館

参加者募集

第4回ふるさと探訪ウオーク(天神編)

平成21年6月16日(火)

集合: 午前9:30
道下公民館
出発: 午前10:00

道下公民館→天神山歴史博物館→
天神山→天神山歴史博物館→
道下公民館(午後3時到着予定)
(天神山博物館本元先生より講義を受ける)

この度、道下公民館の運営審議会会長をさせていただきましたことになりました。微力ではありますが、公民館活動の充実のために精一杯務めさせていただきますので、地域の皆様のご支援ご協力をよろしくお願い致します。

さて、当公民館は平成の初め頃、文部省の学校週五日制の調査研究の指定を受け、それまでの「大人の学校」としての公民館活動に加えて、子供も巻き込んだ

「地域の学校」としての開かれた公民館活動を日本中に発信し、高い評価を受けました。爾来、その伝統は今も脈々と息づいています。子供の活動が大人の活動に繋がり、大人の活動が子供の活動に繋がっているような無理のない自然な活動形態が道下にはあります。

これらを踏まえながら、今後とも、地域の文化が循環し、三世代が繋がる活動が継続発展されるよう応援していきたいと思っております。

三世代が繋がる活動

道下公民館運営審議会会長

本元 義明

地 区 名	配布物数	区 長	文化祭推進委員	体育推進委員	防 犯 組 合	交通センター委員	環境保健衛生推進委員
— 新役員のみなさま — よろしく願います！		(会 長) 南 部 敏 之 (副会長兼庶務) 加 藤 克 則 (副会長兼会計) 林 森 正 通 (監 事) 丸 田 智 恵	道下ふれあい 文化祭 11/7(土)・8(日) みなさまの作 品出品をお待 ちしています	体育振興会役員 (会 長) 松 本 明 夫 (副会長) 寺 田 行 男 山 口 美 剛 山 城 和 子 (事務局) 寺 田 淑 人 小 黒 健 太郎 有 磯 泰 子	(組合長) 七 沢 秋 政 (副組合長) 木 内 清 光 (書 記) 鹿 熊 武 (会 計) 虎 谷 廂 (会計監査) 浦 田 富 治	(支部長) 吉 崎 実 (副支部長) 虎 谷 廂 古 金 山 実 小 山 一 雄 大 原 俊 光 吉 田 一 郎 (高齢者部会長) 寺 崎 一 郎 (母の会支部長) 吉 田 千 恵 子 (青少年部会長)	(会 長) 松 岡 算 (副会長) 大 崎 寛 (会 計) 浅 生 修 (監 事) 窪 田 幸 二
岡 仏 田	151	山 本 茂	石 倉 智 春 平 沢 玲 奈	鍛 治 順 吾 金 山 憲 太郎	中 島 稔	新 村 清 人 岡 本 康 夫	小 松 光 恵
岡 仏 田 2	91	富 居 陸 男	富 居 陸 男	西 野 良 一 秋 田 孝 之	水 島 敏 彦	大 川 武	鈴 木 博 美
仏 田	156	岡 田 邦 幸	岡 田 邦 幸	青 山 浩 稔 横 田	岡 田 邦 幸	岡 田 邦 幸	石 垣 健 一
仏 又	24	田 村 外 雄	田 村 外 雄	田 村 外 雄	田 村 外 雄	田 村 外 雄	田 村 外 雄
青 島 1	145	七 沢 秋 政	七 沢 秋 政	大 崎 嘉 之 信 伊 藤 幸 和	七 沢 秋 政 田 村 公 人	高 岡 博 一郎 辻 直 樹	松 岡 算 春 辻 義 春
青 島 2	74	加 藤 克 則		山 林 雅 和 田 村 勝	木 下 義 明	中 川 孝	佐 生 美 和 子
青 島 3	141	大 崎 悟	大 崎 悟 峰 魚 住 明 峰	田 中 謙 次 魚 住 明 峰	北 川 敏 彦 佐 竹 昌 子	角 川 菊 夫 金 三 津 弘	魚 住 明 峰 奥 川 由 美 子
青 島 社 宅	5	田 中 亮	田 中 亮	田 中 亮	湊 屋 俊 介	田 中 亮	田 中 亮
青 島 新 町	31	黒 瀬 清	黒 瀬 清	澤 田 忠 弘 浅 生 厚	黒 瀬 清	黒 瀬 清	浅 生 修
友 栄	40	布 目 三 保 子		岡 田 栄 二 池 田 さ 江 田 内 清 一 寺 木 順 治 大 畑 正 治	浜 住 尚 子	稲 垣 直 美	新 村 千 鶴 子
北 中	43	浜 藤 勝	山 田 義 雄 江 幡 博 和 寺 田 正	石 原 義 嗣 長 谷 川 守	山 田 義 雄	古 金 三 津 夫	山 田 和 夫
北 中 新	18	石 井 利 和	石 井 利 和	石 原 義 嗣 長 谷 川 守	三 井 田 信 吉 寺 本 輝 世	有 磯 明 則 中 村 由 則	藤 原 雪 枝
下 道	46	林 森 正 通	奥 村 力 二	窪 田 洋 行	石 崎 和 彦	寺 西 良 一	窪 田 孝 二
荒 磯	50	矢 部 貴 之	藤 原 弘 孝	追 栄 幸 平 石 崎 泰 宏 本 吉 龍 正 松 野 家 清	田 中 悦 久	浜 田 綾 子	廣 川 篤
高 畠	41	中 村 功 輝	池 原 谷 道 夫	川 岸 芳 慎 谷 島 達 也	室 谷 俊 博 古 川 勝 義	大 崎 寛	大 崎 寛
北 鬼 江 1	112	大 崎 寛	大 崎 寛 弘 浦 辺 次 一	川 岸 芳 慎 谷 島 達 也	室 谷 俊 博 古 川 勝 義	大 崎 寛	大 崎 寛
北 鬼 江 2	118	川 岸 禎 次	川 岸 禎 次 山 田 修 一	谷 島 達 也 広 浜 伸 和	室 谷 俊 博 古 川 勝 義	川 岸 禎 次	川 岸 禎 次
北 鬼 江 3	150	大 崎 康 雄	大 崎 康 雄 大 崎 康 雄	広 浜 伸 和	室 谷 俊 博 古 川 勝 義	大 崎 康 雄	大 崎 康 雄
釈 迦 堂	63	美 浪 清	中 川 勝 司 米 山 弘	古 元 雅 一 森 野 内 男 加 藤 藤 智 進 虎 谷 大 張 吉 片 田 智 進	森 内 辰 男 森 内 謙 一 虎 谷 敏 明 加 藤 敏 明	森 内 光 雄	森 内 辰 男
本 新	164	小 畠 範 文	寺 崎 一 郎	藤 竹 山 信 一	長 谷 川 稔 三 山 岸 義 三	辻 飛 美 和 本 田 陽 子 秀 島 朝 子	山 岸 玲 子
磯 路	37	南 部 敏 之	金 和 勝 明	飯 島 英 一	浦 波 久 雄	米 田 松 美 加 藤 栄 子	水 口 勇
小 川 田 住 宅	10	石 崎 誠		森 文 代	米 田 松 美 加 藤 栄 子	米 田 松 美 加 藤 栄 子	浜 田 春 江
道 下 住 宅	40	丸 田 智 恵		森 文 代	米 田 松 美 加 藤 栄 子	米 田 松 美 加 藤 栄 子	浜 田 春 江
全 2 3 区	1750						

● 道下婦人会

会 長	青 山 芳 枝
副 会 長	山 城 美 和子 蔵 谷 初 乃子 小 森 幸 子
書 記	寺 田 昌 美 寺 田 春 美
会 計	経 田 喜 子 吉 田 千 恵子
監 査	谷 島 紀 子 川 岸 律 子
女性セミナ	岡 崎 香 川 岸 照 子 長谷川 真理子 金三津 千恵子 山 城 美 和子 吉 田 千 恵子 河 崎 洋 子

道下婦人会では、年間を通して会員を募集しています。どなたでも誘い合って参加してください。

連絡先 090-6275-5364
(青山)

● 道下老人クラブ連合会

会 長	山 本 明 正
副 会 長	山 田 和 夫 大 崎 勉
会 計	笠 間 正 時
学 級 長	大 浦 龍 雄
学 級 主 事	笠 間 正 時
学 級 主 事 補	横 田 葉 子
会 計 監 査	浦 田 富 治
女 性 部 委 員	川 上 君 子 大 崎 悦 子

● 地 区 役 員

青島千歳会	山 田 和 夫 金 物 正 男
北鬼江福寿会	山 本 明 正 山 川 岸 隆 菊
釈迦堂千歳会	大 浦 龍 雄 笠 間 正 時 横 田 葉 子
本新千歳会	大 崎 勉 子 大 崎 悦 子
青島3区青悠会	浦 田 富 治 加 藤 勲

● 民生委員児童委員協議会

委 員	担 当
山 田 夏 子 (会 長)	北 鬼 江 2 区
田 中 源 三	岡 仏 田 区 岡 仏 田 2 区
室 口 日 出 輝	仏 田 区
中 川 美 恵 子	磯 路 区 仏 又 区 小 川 田 住 宅 区 下 道 区
田 村 紀 明	青 島 1 区
浦 親 利	青 島 2 区 青 島 3 区 青 島 社 宅 区 青 島 新 町 区
大 崎 政 春	北 中 区 友 栄 住 宅 区 北 中 新 区 荒 磯 区
山 本 明 正	高 畠 区 北 鬼 江 1 区
大 崎 和 美	北 鬼 江 3 区 道 下 住 宅 区
森 内 貞 男	釈 迦 堂 区
寺 崎 義 弘	本 新 区
長谷川 真理子	道下主任児童委員

● 地区社会福祉協議会

会 長	慶 伊 敏 雄
副 会 長	古 川 勲 山 田 夏 子
事 務 局	田 村 紀 明
会 計	田 中 源 三
常 任 理 事	山 本 明 正 大 崎 勉 大 金 坂 真 智 子 室 口 日 出 輝 中 川 美 恵 子 水 橋 涉 蔵 谷 初 乃 子 青 山 芳 枝
理 事	南 部 俊 之 松 岡 算 政 七 沢 秋 実 吉 崎 富 貴 子 盛 本 和 夫 山 田 美 和 子 山 城 正 時 笠 間 千 恵 子 吉 田 義 弘 寺 崎 政 春 大 浦 親 利 大 崎 和 美 森 内 貞 男 長谷川 真理子 石 川 登 美 子 山 本 た き 子 小 路 典 子 米 山 明 美
監 事	木 下 英 暖 樗 谷 正 人
参 与	大 崎 勇 山 浦 春 美 大 浦 龍 雄

平成21年度

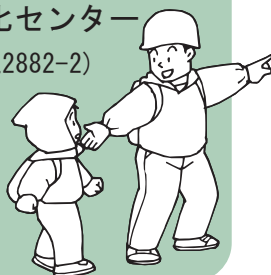
魚津市総合防災訓練

と き 9月27日(日)

主会場：魚津市浄化センター

(北鬼江2882-2)

動員要請がありましたら
道下地区のみなさん
のご協力をお願いします。



● 消防第11分団役員

分 団 長	西 野 宗 司
副 分 団 長	加 藤 康 彦
部 長	川 岸 久 栄 寺 田 本 清 山 加 藤 正 茂 金 森 元 隆 本 久 保 久 勲 沢 西 崎 利 昭 山 西 尾 勉 範 虎 谷 田 利 豊 寺 崎 博 和 保 文
班 長	

★ 公民館職員

館 長 大 崎 勇
主 事 木 下 英 暖
書 記 米 山 明 美
新 指 導 員 青 山 芳 枝



今年の四月より指導員の委嘱を受けました青山芳枝です。道下の元気な子ども達からパワーをいっぱいもらってひとつでも若返りたいと思っています。よろしく願います。

書記 代替 虎谷 鈴子
監 事 山田 夏子
古川 勲

平成二十一年度
道下公民館役員

★ 運営審議委員(順不同)

新◎ 本元 義明 有識者

○ 保里 昭男 有識者

吉崎 実 道下振興協会理事長

新 橋本浩八郎 有識者

新 小森 幸子 有識者

新 山浦 春美 道下小学校長

新 南部 敏之 道下区長

新 慶伊 敏雄 地区社会福祉協議会長

樗谷 正人 道下小学校育成会長

◎ 会長 ○ 副会長

平成20年度決算・平成21年度予算

収入の部

(単位：円)

項 目	20年度決算	21年度予算
委託金		
放課後子ども教室	480,000	500,000
小計	480,000	500,000
市交付金		
高齢者学級	80,000	80,000
公民館教室	170,000	170,000
地域異世代交流事業	220,000	220,000
共催事業費	583,000	585,000
書記・指導員活動費	20,000	20,000
小計	1,073,000	1,075,000
自主財源		
住民負担金	1,584,779	1,557,000
道下振興協会助成金	400,000	400,000
寄付金	581,000	300,000
雑収入	274,857	200,132
繰越金	305,715	327,868
小計	3,146,351	2,785,000
合計	4,669,351	4,360,000

支出の部

(単位：円)

項 目	20年度決算	21年度予算
事業費		
放課後子ども教室	480,000	500,000
地域異世代交流事業	220,000	220,000
高齢者学級	80,000	80,000
女性セミナー	150,000	150,000
ふれあい学級	20,000	20,000
公民館講座	70,000	0
団体助成金	280,000	300,000
敬老会費	358,708	400,000
体育祭費	699,831	700,000
文化祭費	548,213	550,000
芸能・スポーツ活動費	115,364	120,000
広報活動費	220,752	220,000
研修活動費	64,812	80,000
書記・指導員活動費	20,000	20,000
小計	3,327,680	3,360,000
運営費		
会議費	33,700	40,000
事務費	32,970	35,000
通信費	19,500	20,000
品経費	61,590	100,000
熱費	69,415	80,000
品経費	51,543	55,000
消耗品	271,455	280,000
報酬	50,000	0
保険料	58,000	60,000
雑費	129,800	130,000
改築20周年事業積立	65,836	80,000
創立60周年事業積立	100,000	0
予備費	100,000	100,000
小計	0	20,000
合計	1,043,809	1,000,000
合計	4,371,489	4,360,000

二十一年度主な事業予定

- ☆ 5月23日(土) 道下サークル活動開講式
- ☆ 6月7日(日) 地区敬老会
- ☆ 6月16日(火) ふるさと探訪ウォーク(天神編)
- ☆ 6月28日(日) ソフトボール大会
- ☆ 8月9日(日) 蝶六街流し (東中グラウンド)
- ☆ 8月30日(日) 道下住民ゴルフ大会
- ☆ 10月4日(日) 地区体育祭
- ☆ 11月7日(土)・8日(日) 道下ふれあい文化祭
- ☆ 11月29日(日) ビーチボール大会



サボテンの花は一日花。
手作りの温室2棟に
サボテンがいっぱい。



サボテン温室栽培

● 大原幸一さん
(北鬼江二区)

季節の窓

―― 第一回 ―― 趣味悠々



近くを通る人々が思わず
足をとめてながめる
美しさです。



バラ園芸

● 細田宏一さん
(北鬼江二区)

8/9(日)

じゃんこい魚津まつり

せり込み
蝶六街流し

10/4(日)

地区体育祭



11/7(土)・8(日)

道下ふれあい
文化祭

道下の歴史を語る会

◎《第二回語る会》(後半)

【日時】一月十五日(木)

【出席者】辻かね子さん(昭八) 虎谷鈴子さん(昭八) 加藤孝司さん(昭十一) 田村光雄さん(昭十一) 松岡算さん(昭十一)の五名に山本晃正さん(昭十一)他会員三名

【語られた概要】

前号では戦時中の辺りまでのことを紹介しました。今回はその後のお話を紹介します。

- ・北中の踏切の所には「道下」という地鉄の駅があったが、しばらくで無くなった。
- ・遠足は、初代の水族館、天神山、開山。夜中に愛本橋まで行ったこともある。
- ・先生方に当直があり、遊びに行つて、泊まったこともあった。
- ・弁当を火鉢の周りに積み上げて温めた。ブリキの箱ができると、その中に入れて蒸気で温めた。おかずの匂いが移って困った。
- ・昭和二十二年、海望中学校ができ(今の谷さんの家)、経田小と道下小から入学。昭和二十三年、四中学から東部と西部の二中学に。東部の校舎は魚津中学校

の跡、高校生と同じ敷地にいた。昭和二十四年、現敷地に校舎完成。

ラジオ、映画で世の中を知る。青年団の集まりが勉強になった。生活改善のために結婚式を公民館でやる運動をし、模擬結婚式をした。結婚式は家から公民館へと移り、市民会館へと移っていった。新婚旅行は山中温泉。

三月三日のカーバイドの演芸会は超満員だった。カーバイド病院が今の道下公園の所にあり、大火で焼けて西門の方に移った。カーバイドで働く人が魚津駅から工場まで行列になった。道下村の多くの人がカーバイドに勤めていた。三十年代には三千三百人いた。

・苦しい時代を生きたがまずまずの生活をしてこれた。戦争に行かないままこれたので逆に恵まれた時代。衣食住の食が中心の時代。明治生まれの人の話を通じた。今は昔の時代のことを言っても見向きもしない時代。

・道下の地名。消えていくのはさびしい。書き残すべき。

◎《第三回語る会》

【日時】三月二十九日(日)

【出席者】田村紀明さん(昭二十三) 河上信一さん(昭二十三) 谷越光子さん(昭二十二) 松本明夫さん(昭二十一)の五名に大崎勇さん(昭十七) 細田宏一さん(昭二十) 他会員三名

【語られた概要】

・岡仏に仏教青年会という明治から続く組織があり、昔は年二回各家々を回って会合をしていた。今は年一回会館で行っている。

・昭和三十四年に小学校の校歌ができた。昭和三十三年の蜃気楼旋風も覚えている。

・昭和三十一年の魚津大火が一番の思い出。ポンプで水を汲んで、火の粉が飛んできたらかけて消した。疲れてあきらめかけたら風が変わった。柱が焼けて飛んできた。朝、大町の魚津市役所まで家が一軒もなかった。学校では講堂が仕切つてあつて、村木小学校の子供たちが来ていた。

・本新とのチャンバラ。ジョン林を根城にして戦った。ジョン林には、近くの石灰工場のコークス技師ジョン氏が住まわっていた。林の遊びで漆にかぶれた。他に陣取り、ゴムだん、かくれんぼ。学校の廊下のピンポンの枠で相撲。裸足で過ごした。

・田んぼの手伝いは当たり前で、川の水が飲めた。田植えの結いがあつた。円に妹が入れられていた。中間の食事が楽しかった。農繁期には託児所があつた。

・谷さんの銅像を谷家から学校まで引つ張った。砂利道を馬車に乗せて運んだ。砂利道は埃がたつので、水撒きが日課。バスや車が通ると真っ白になった。海水浴は北鬼江の浜。



道下小学校(旧校舎)

・太い竹竿をつないで仕切られている中で泳いだ。最初の頃には馬で、後で牛になった。牛は肉用に売れた。

・ボーイスカウトを子供の頃からやっていた。統率とチームワークがとれており、子供集団の上下関係が組織として機能していた。今はガキ大将の喪失が子供を育たなくしている。活動の目当ては自ら鍋でご飯を炊いて食べることができるようになること。……

・以上三回にわたる語る会の概要を紹介しました。子供の頃の話が中心でしたが、当時の情景、日々の生活がよく分かりました。何より子供が家庭の一員として必要とされ、「ありがたい」と言ってもらえる自己肯定感、自己有用感を育てる場が自然にあったことが世代を通じて感じました。これは、現代の子育てで見失ったものを思い起こさせます。

・協力してくださった皆さんありがとうございました。

魚津市民バス 経田―道下ルート

「NPO法人経田道下バス運行協議会」が運営する魚津市のコミュニティバス「経田―道下ルート」の本格運行が始まって1年が過ぎました。

この1年間で住民の方々の間にコミュニティバスが浸透したのか、運行開始当初は1日の乗車人数が平均40人弱だったのが、最近では60人前後へと約1.5倍に増加しています。さらに多くの人に乗車してもらえるように関係者一同がんばりますので、よろしくご協力をお願いします。（なお、NPO法人では1日平均70人の乗車を目標にしています）

魚津市民バス「経田―道下ルート」は、経田公民館とJR魚津駅の間を日曜・祝日を除く週6日運行しています。

（運賃100円）※未就学児は無料

尚、全ルート共通の回数券（11枚綴1,000円）や時刻表は公民館（22-2285）

にも置いてあります
みなさんのご利用を
お待ちしております。

みんなで乗ろう
みんなの輪で
みんなで育てましょう



賞 おめでとうございます

●平成二十年産

富山県教育功労者表彰

（優良社会教育団体賞）

喜見城俳句会

代表 長沼 紫紅 氏

（北鬼江一区）

●平成二十年産

新川地域発展賞

（特別賞）

魚津地区生涯学習団体協議会

会長 木内 静子 氏

（仏田区）

●重量挙げアジア選手権

（カザフスタン）

〈女子69キログラム級8位〉

谷 綾野 氏

（北中区）

●徒歩一万km達成

（平成21年5月30日）

山本 晃正 氏

（北鬼江三区）

一万kmに
思い出さずしり

私が魚津歩こう会に入会して
三十六年も経過しました。

一日五千歩以上歩いた時と、
歩こう会の行事で歩いた歩数と
距離を、全てパソコンに入力し
てきました。

いよいよ歩行一万kmに近づき
ました。一万kmとは魚津から地
中海のギリシア辺りまで、約地
球四分の一の周程の距離です。

これまでにいろいろな思い

出があります。特に平成十年、新潟県市振から石川県境の脇まで、四日間富山湾を観光ながら歩き通したことや、平成十三年に、魚津の海拔0メートルから四日間で立山の大汝山まで完歩したこと、又、上高地、尾瀬等を歩いてきたことです。

今年五月三十日、魚津市役所分庁舎から富山県庁までの間二十五kmを完歩し、目指す一万kmを達成しました。

当日は教育委員会の方々とマスコミそして魚津歩こう会の皆さんに見送られ出発しました。休憩は途中の一回だけ、五分間程の休息の後五時間半かけて県庁に到着しました。

歩くことは健康維持の第一歩。会に入会してから日々健康作りのありがたさに感謝しています。

皆さん、魚津歩こう会に入会しませんか？（山本 晃正）

道下公民館

サポーター

現在中学生・高校生を含め、25名の方が登録くださり、公民館活動にご協力いただいております。（随時募集）

サポーター名簿（五十音順）

青山 浩 大崎 亜樹
大崎 勝正 大崎 茉耶
大嶋 杏奈 河浦菜ノ子

編集後記

コブシ、サツキ、ツツジ、サボテン、そしてバラ。道下公民館の近辺はまさに花回廊。公民館にいらつしやる皆さんには花回廊を歩きながら初夏の空気を胸一杯に味わって帰りたいと思います。しかし、昨今の新型コロナウイルスエンザ報道はそうした情緒を吹き飛ばし、一抹の不安を私達に抱かせています。地域の皆さんが健康に留意され、元気な姿で来館なさることが何よりです。ご自愛を。

道下地区の人口

（平成21年5月1日現在）

男 3,043人（-7）
女 3,194人（-10）
計 6,237人（-17）
世帯 2,238戸（-29）

※カッコ内は前号対比

小島 範文 小島真知子
高野 史雄 高岸 李
高橋美恵子 田中 源三
谷島 若奈 寺田 良作
中川 勝司 中瀬 淑美
藤波 達也 古川 勲
細田 宏一 保里 昭男
本田 義明 室谷 俊博
盛本 貞子 山本 晃正
狩田 詩織